

道徳の時間で活用する  
～善悪の判断、自律、自由と責任～

下松市立花岡小学校 南 直樹

主題名「よく考える」～「ぼんたとかんた」（出典 「私たちの道徳」）～

**1** 主題について

本主題は、内容項目「よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。」を中心に構成するものである。低学年の子どもは、「ろうかを走ってはいけない。」「授業の始まりの時刻を守る。」など、教師の話すことを正しいことと受け止め、素直に守ろうとする。一方、早く遊びに行きたいという欲求にかられ、廊下を走ってしまったり、遊びをやめたくなくて、授業の始まりの時刻を守れなかったりすることもある。人の欲求は、自分の人生を充実させる原動力ではあるが、それを制御できなければ、時に、自分や他人を傷つけることにつながってしまう。そうならないように、自分の欲求を満たそうとするときには、一歩立ち止まり、その欲求を満たした後に、どんなことが起こりうるのかを想像することが大切であると考えます。

**2** 授業の実際

(1) 導入

教師：今までに、「いけないな。」と思っているのに、ついやってしまったことはありますか。  
 A児：テレビを見すぎてしまった。  
 教師：どうして？  
 A児：おもしろかったから。つい。  
 B児：廊下を走ってしまった。  
 教師：どうして？  
 B児：早く遊びに行きたかったから。  
 C児：おやつを食べすぎてしまった。  
 教師：どうして？  
 C児：おなかがすいていて、夕御飯まで待てなかったから。  
 教師：なるほど、今日は、「いけないな。」と思ったけど、つい山に入ってしまうかんたのお話を紹介します。このお話から、大切なことを見付けましょう。(資料「ぼんたとかんた」を読む。)

□ 指導上の留意点

よく考えないで行動したことを発表させ、板書することで、本主題や本資料の問題場面とのつながりを継続して意識できるようにする。

(2) 展開

教師：(発問1)「へいき、へいき」と言って、うら山に入っていたかんたは、どんなことを思っていたのでしょうか。  
 D児：せっかく見付けた秘密基地をぼんたにも見せたいな。  
 E児：前にも行っているから、危くないよ。  
 教師：みんなも、秘密基地を作ったことがありますか。  
 F児：ある。家の庭で作ったよ。  
 G児：公園の木の中に作ったことがあるよ。  
 教師：秘密基地では、どんなことをするの？  
 G児：その中で、携帯ゲームとかをする。  
 教師：なるほど。かんたも、秘密基地で、ぼんたとそんなことをしたかったのでしょうかね。  
 教師：(発問2)一人になったぼんたは、どんなことを思っていたのでしょうか。

H児：どんな秘密基地なんだろう。  
 I児：せっかく誘ってくれているし。  
 J児：でも、お母さんに怒られるから、やめておこう。  
 K児：でも、山に入ったら危ないから、やめよう。  
 教師：危ないって、どんなことですか？  
 L児：毒へびにかまれるかもしれない。  
 M児：ハチにさされるかもしれない。  
 N児：迷子になるかもしれない。  
 教師：(発問3) かんたとぼんたの気持ちのちがうところは、どんなところですか？  
 O児：かんたは、迷っていないけど、ぼんたは、迷っている。  
 P児：ぼんたは、「でも」「かもしれない」って思っている。  
 教師：このあと、ぼんたとかんたがどうなったか読みますよ（資料の続きを読む）。  
 教師：(発問4) みんなは、かんたとぼんたのどっちのようになりたいですか。  
 Q児：ぼんた。  
 教師：どうして？  
 Q児：はじめのかんたのように、よく考えないと、危ないめにあってしまう。

□ 指導上の留意点

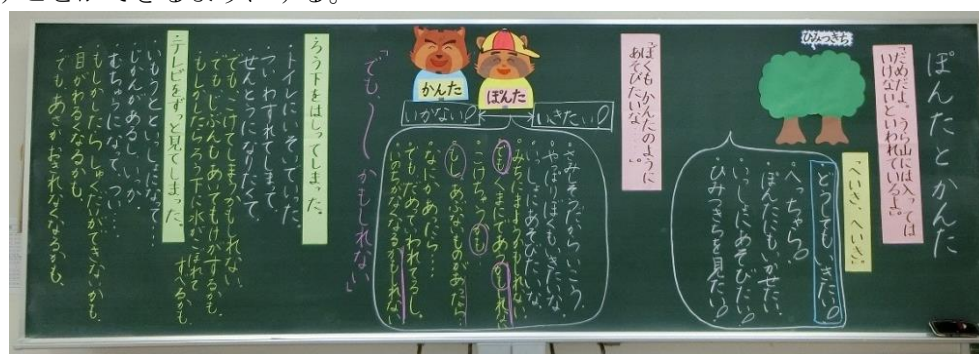
問題場面の登場人物の心情を推測する発問（発問1・2）の後に、登場人物の心情を比較する発問（発問3・4）を投げかけることで、よく考えること具体に気付くことができるようにする。

(3) 終末

教師：ぼんたのように「でも」「かもしれない」と思えると、危ないめにあわないんだね。じゃあ、はじめに、「ついやってしまったこと」を聞いたけど、どう思えばよかったのでしょうか。例えば、テレビを見すぎそうになったときには、どう思えばよいのでしょうか？  
 R児：目が悪くなってしまうかもしれない。  
 教師：なるほど。では、廊下を走ってしまいそうになったときにはどう思えばよいのでしょうか？  
 S児：だれかにぶつかるかもしれない。  
 教師：そんなふうに思えることが「よく考えること」なんだね。

□ 指導上の留意点

導入で発表させた行動をもとに、「よく考えること」を具体的に想像させることで、今後の実践に生かすことができるようにする。



**3** 実践を振り返って

2名の対照的な人物が登場する資料においては、両者の行動や心情を比較させることは、気付かせたい見方や考え方を、子どもたちに気付かせる上で有効であると言える。しかし、発達段階に応じた発問の仕方には、工夫がいると考える。